

# 高 森 町

## 1 地域の概要

### [ 位置および立地条件 ]

- 県南部に位置し、天竜川沿いに広がる河岸段丘に展開し、あらゆる種類の農作物の栽培が可能な恵まれた自然条件にある。

### [ 農業構造 ]

- 農家数（2000年センサス）は、総数1,149戸、うち販売農家942戸。専業業別では専業が150戸、第1種兼業237戸、第2種兼業555戸である。
- 耕地面積（平成16年調査）は992haで、うち水田351ha、畑641ha（うち樹園地432ha）である。
- 主な作目は、水稻（平成16年230ha）、飼料作物（同72ha）、野菜（キュウリなど）、果樹（リンゴ、梨など）および畜産（乳用牛および肉用牛で、飼育農家数平成17年46戸）である。

### [ 振興方向 ]

- 新たに設立された営農支援センターが中心となって、新しい技術を担い手に普及し、また流通体系の改善を進め、産地化を図っていく。

### [ J A ]

- J Aみなみ信州（農地保有合理化法人）

### [ 支援センター ]

- J Aみなみ信州 高森支店に設置。町から1名、J Aから1名の専属スタッフを置いている。
- 下伊那郡の水田協議会は、「南信州地域水田農業推進協議会」で1本化されている。

## 2 GISの整備・取組み経過

### [ 導入年度及び補助事業 ]

- 平成 15 年度
- 農地情報利用効率化対策事業

### [ 導入方法 ]

- 「台帳システム」, 「地図システム」, 「照合システム」を同時に導入
- 住民基本台帳と固定資産土地台帳を利用して農家・農地台帳を作成
- 税務課で管理されている「地番図」, 「家屋図」, 「地形図」データを利用
- スタンドアローン型 1台

### [ 管理主体 ]

- 農業委員会事務局

## 3 電子地図の管理等

### [ システムで利用される地図データ ]

- システムは 地番図を基本として、必要に応じて 地形図を背景として重ねられるものとなっている。航空写真は管理していない。
- 家屋図（建物形状図）もベクトルデータとして管理されている。



地籍図  
(ベクトル)



建物形状図  
(ベクトル)



地形図  
(ラスター)

## 4 維持管理

### [ 地図データの更新 ]

- 年 1 回
- 税務課で更新された地番図データを取り込む
- 業者委託

### [ 農家・農地台帳データの更新 ]

- 年 1 回
- 住民基本台帳は、「照合システム」により課内で処理
- 固定資産土地台帳は、毎年 5 月に業者委託により更新

## 5 システム活用事例等

### [ 農業委員会としての利用 ]

- 貸付申し出地の位置確認
- 転用申請時の位置確認
- 議案書作成機能を利用し、承認後の異動農地更新を自動で処理している

### [ その他の利用 ]

- 「農振除外」を地図上から入力する機能を利用し、GIS により「農振地域」の一筆管理をしている。
- 「中山間地域等直接支払制度」の対象農地を管理している

### [ その他 ]

- 「遊休農地」: GIS では管理しておらず別途 Excel で管理
- 「生産調整」: 別システム(台帳のみ)で管理

## 6 導入効果と今後の課題

### [効果]

- システムで議案書を作成することにより、総会で承認を得た農地の異動が自動的に更新できる。二度手間ではないため、正確なデータ更新処理をおこなうことができる。
- 農地の利用調整、転用申請時に農地の位置確認ができるため、農業委員会業務の効率化と正確性につながっている。

### [課題]

- 個人情報保護の問題をクリアした上で、GISによる「支援センター」との情報の共有化を実現することで、活用の拡張につなげる。
- 現在 Excel で管理されている「遊休農地」の情報を、GISに取り込み、管理するとともに、その解消へ向けての活用につなげる。
- 「台帳システム」開発業者が契約窓口であるが、「地図システム」の開発業者が開発を中止したため、業者が変更となってしまう。今後のメンテナンスやバージョンアップにやや不安が残る。



高森町農地台帳システム



地図画面からの農振除外地入力機能

調査者：小澤 克巳（地域農業経営戦略研究会代表理事）